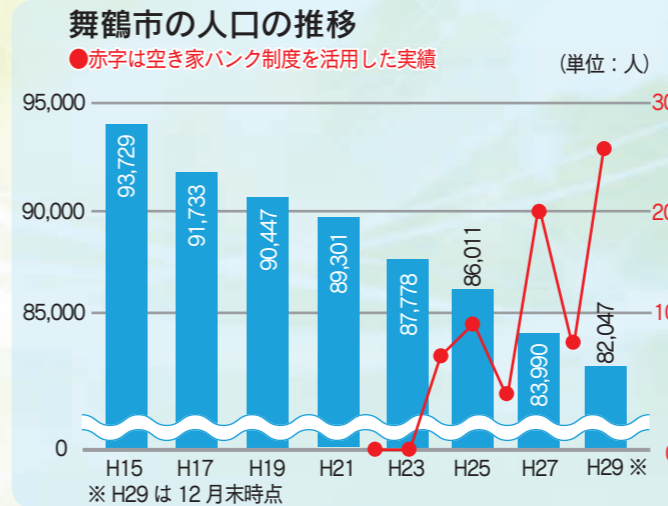


移住者は地域の新たな風

地域づくりでは人の役割を「土の人」「水の人」「光の人」「風の人」と例えることがあります。「土の人」は地域を支える土台のような人で、「水の人」は面白さを見つけてイベントなど動きのきっかけとなる人、「光の人」は地域の隠れた宝物を外へ発信する人。そして「風の人」は地域の外から理想などを持ってやってくる人。新しい情報、人、考えなどを運び、地域内の止まった空気を動かすものになります。「風の人」が地域に入れば、地域の新しい魅力を発見してくれることがあります。外から見た意見によって地域づくりが活性化することもあり、地元の若者が同世代の風を感じることで、自身の役割を再発見することもあるかもしれません。移住者は地域にとって新しいことを運んでくれる、まさに「風」のような存在ではないでしょうか。



本市の人口は、1965（昭和40）年以降、おおむね対前年増減比±1.0%の範囲で推移してきましたが、平成15年に自然動態（出生と死亡）が増加から減少に転じたこともあり、平成17年以降は、10年間で約7,700人が減少し、国立社会保障・人口問題研究所の推計は、平成27年以降も同様の減少傾向が続く内容となっています。

本市ではさまざまな移住（転入）施策を行い、その成果は着実に現れ始めています。

移住のための取り組み



北部で連携

「海の京都」5市2町で協力
京都府北部5市2町と京都府では、「京都」の知名度などを生かしたさまざまな事業を連携して実施しています。

移住促進のため、昨年度に続いて、勧業館みやこめっせ（京都市）で、平成30年卒業予定の学生や既卒者、U・Iターン希望者を対象に、圏域に所在する企業による合同企業説明会を開催しました。当日は、122社が出展し、133人（学生95人、一般38人）が来場。昨年度に比べ、参加企業数は25社、来場者数は16人増加し、20人を上回る人の圏域への就職が内定しました。

また、都会から田舎への移住を考えている人に対しては、実際に圏域へ移住した人などのような生活を送っているのかを紹介する冊子「たんたんターン」を作成・配布し、田舎ぐらしのイメージ作りに活用。こうした取り組みの案内や紹介は、広報雑誌のほかウェブサイト（右下コードからアクセス可）でも行っており、それぞれの市町の「空



舞鶴のことを伝えたい

「空き家バンク」に登録された物件の概要も掲載しています。今後も、都市部での移住フェアに合同で参加するなど、連携のメリットを最大限に活用した取り組みを行っていきます。



▲「たんたんターン」のロゴ（上）とウェブサイトのコード（下）



▲圏域に所在する企業による合同就職説明会



▲冊子「たんたんターン」

動画投稿サイトを活用PR動画

市では移住定住促進に取り組むため関係課で構成する「移住定住プロジェクトチーム」の若手職員が制作した市公式PR動画2本を昨年12月15日に公開。企画・撮影・編集まで全て若手職員で行い、「住んでみたい」「引越したい」と思ってもらえる豊かな自然環境や衣食住の魅力にスポットを当てた内容となっています。動画は動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開。市ホームページなどでも見ることが出来ます。



▲MAIZURU Style vol.1



▲窓に落ちてみちやたら?

京都移住コンシェルジュ

都市部で移住相談窓口を開設中
京都移住コンシェルジュ（京都府事業）は、京都府への移住を促進するために、東京、大阪、京都都市部の移住希望者向けの窓口となり、相談業務やセミナー、移住体験ツアーを行っています。年間900件の相談があり、ほとんどが20〜40代。セミナーでは、実際に地域の人や移住経験者の生の声を伝え、暮らしのイメージや地域とのつながりができるように工夫しています。

京都移住コンシェルジュの藤本和志さん（5人関連記事）は「都市基盤と自然環境の両方がある暮らしを希望される人には、舞鶴市への移住をお勧めしています。移住者を積極的に受け入れてくれる地域が多いので、紹介しやすいです」と評価してくれています。



▲大阪での移住セミナーの様子

上漆原区長の有本充さん（右）と上漆原地区に移住し、舞鶴赤十字病院に勤務する劉雪蓮さん（左）

